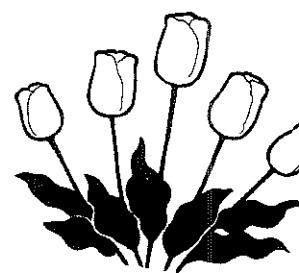


勝林寺寺報

生と死



まだ40代の男性。肺癌の告知をうけてヘビースモーカーだった彼も、さすがにその日から禁煙したのだと笑いながら、それから口早に次ぎのような話をしてくれました。

アメリカの統計なんだけど、百歳以上の高齢者は、平均して死に至る前四年間「心身の障害」を持つ。この死に至る前の四年間をどのように介護するかが高齢者介護のポイントである。同時に高齢者の側から考えると、この死に至る前の四年間（人生の4%最終年）のいのちをどう生きるかが、その人の全生涯の勝負どころだというのです。この四年間に孫や子に対してよいロールモデル（人生の模範）をしめす努力をしなければならないのだというのです。

その人は云うのです。「わたしも残されたこの命を悔いなく力いっぱい生きて見ようと思います」といつてくれました。いつかのNHKラジオの「こころの時代」で、明治の文豪正岡子規のことを話していましたが、彼は禅の悟りとは「慌てずに死ぬことができる」と思っていたが、最近、いやそではない「悟りとは慌てずに生きることだ」と気が付いたというのです。「わたしも、あわてずに生き切ったといふ死に方をしたい」と、教えてくれました。

今になってしまい昔の人の生き方・死に方が羨ましく思い出せると云うのです。

ひい爺さんにあたる人だそうですが、いつも口癖のように云っていたそうです。

「生きるも死ぬるも弥陀のうち。ナンマンダブツの今の御利益」

「生きるも死ぬるも弥陀のうち。ナンマンダブツのいまのご利益」

百まで生きる人もある、三十代で途中死にするひともある。人間のいのちはいずれにしても限りあるもの。しかし所詮限りあるいのちが、そのままナンマンダブツと如来さまの限りないのちに願われているとしらされら、そのねがわれているいのちを精一杯生きて精一杯死なせて頂くばかりじゃ。

我が家では、代々昔からお正月元旦、いつも違つお勤めをします。「現世利益和讃」と云うものです。

南無阿弥陀をとなうればこの世の利益きわもなし

流転輪廻の罪きえて定業中天のぞこりぬ

いのち一杯生きる人。途中死にする人。何歳生きるかなんぼで死ぬか。そんなことは問題にはならぬ。

ナンマンダブツの如来さまのおよび声に願われて、まるごと無量のおいのちにからめとられた氣安さから

精一杯輝いて生き死にいたしましょう

癌告知をうけたその方と、久々に、なんと

もうれしいお話を交わして一時でした。

蓮如上人さまの「文章に「いつのまにかは年老の積もるらんとも覚えずしらざりき」（いつたいいつのまにこんなに歳がよって仕舞つたのだろうと、覚えず知らぬ間のことありました）

老いを生きる

八十老翁

「2月は逃げる3月は去る」とはよく云つたもので、時の移り変わりの早さに驚いています。

蓮如上人さまの「文章に「いつのまにかは年老の積もるらんとも覚えずしらざりき」（いつたいいつのまにこんなに歳がよって仕舞つたのだろうと、覚えず知らぬ間のことありました）

年老の積もるらんとも覚えずしらざりき（いつたいいつのまにこんなに歳がよって仕舞つたのだろうと、覚えず知らぬ間のことありました）

かくなるうえは、老いをドーンとわがみにひきうけて、この老年をどう生きるか、このことを実践してみたい」と考えているのです。

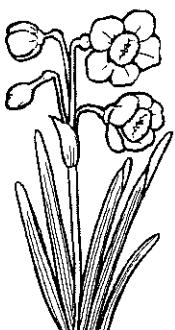
先ず第一、「老いから逃げないこと」。次第に老いは深まってやがて死に至る。そのことをキッチリと見据えたうえで、この老いの期間をより充実したものにする工夫をすること。

身体的にも精神的にも、老いの健康を保つために、できるだけみつけて「仕事」をする。

其の仕事が世の中の為、孫のために役に立つのであればそれに越したことはないが、あまり効果ばかりを狙うとガッカリさせられることになるから、「人のためではない自分の勉強」と努力したいものである。

第二は、耳が遠くなるほど聞きたがりやになる。聞こえないからひがむ。イライラ腹が立つ。そうしてよけいに「老い」をさもしい俺しいものにしてしまう。

「生死の家を出る」ということも「有為の奥山きよう越えて」ということも、所詮「聞きたい知りたいあまたい」の世界から抜け出して、「わがみひとりのいのちのゆくえ」に集中没頭することが「究極の老いの生き方」



ではないかと思っている。

このごろしきりと蓮如上人の「後生の一大事をここにかけて」というおすすめが、ここに響いてくる。が蓮如さまの長寿と輝かしい生涯の秘訣ではなかつたのか」と、ひとりで思わせていただいている。

深い意味のわからないまま、「ああ、あれが蓮如さまの長寿と輝かしい生涯の秘訣ではなかつたのか」と、ひとりで思わせていただ

五月のこよみ

三日 宮嶋一恵氏宅墓移転

四日 永井孝一郎氏法事

五日 田中保夫氏宅法事

六日 兼井元三郎氏宅法事

八日 永井均氏宅法事

九日 ビハーラ兵庫研修会

十日 はこべの家チャリティー絵画展
(→十三日グランドホテル)

十一日 森井勉氏宅法事

十二日 出石組組内会(西宗寺)

十三日 坂本晃氏宅法事

十四日 兵庫教区基幹運動推進委員会総会

十五日 教区基幹運動推進委員会総会

十六日 但東町役場
十六夜会定例法座

二十六日 中嶋登美男氏宅法事
二十七日 近畿みのりを聞く会定例法座

二十八日 あすなろ録音日
検診

合同研修△△

第二は、耳が遠くなるほど聞きたがりやになる。聞こえないからひがむ。イライラ腹が立つ。そうしてよけいに「老い」をさもしい俺しいものにしてしまう。

「生死の家を出る」ということも「有為の奥山きよう越えて」ということも、所詮「聞きたい知りたいあまたい」の世界から抜け出して、「わがみひとりのいのちのゆくえ」に集中没頭することが「究極の老いの生き方」

五一五八〇〇
0796

十日に一度
テレホン法話を聞きましょをう。

第二は、耳が遠くなるほど聞きたがりやになる。聞こえないからひがむ。イライラ腹が立つ。そうしてよけいに「老い」をさもしい俺しいものにしてしまう。

「生死の家を出る」ということも「有為の奥山きよう越えて」ということも、所詮「聞きたい知りたいあまたい」の世界から抜け出して、「わがみひとりのいのちのゆくえ」に集中没頭することが「究極の老いの生き方」

出石組

念仏奉仕団

五月二十一日
→六月一日

早急に申し込んで下さい。
要綱は折り返し送付致します。

今年に入つてから急に足腰が弱ってきて、
全体うごきが鈍くなつてしましました。
テレホン法話や寺報を、身を入れて味わう
ようになりました。

ところで最近、よく蓮如上人の『ご文書』
のことばがよく出でます。例えば「生死出
離の一道」などですが、「ご文書」のどこに
あるのかわかりません。「ご文書箱」をあけ
て調べるのですが皆目つかめません。いま
のことばになおしてわたしにでもわかるよう
に教えて下さい。

(質問)



さて、秋も去り、春も去つて、年月を送り、
昨日も過ぎ、今日も過ぎていきます。

いつの間に老いはつののでしょうか。覚え
ました。そんなふうではあります、その間
には、あるいは花鳥風月の楽しみに興じたこ
ともあつたでしようし、また、病の苦しみに
悲喜こもごもとすることもあつたでしょう。
しかし今は、それを具体的に思い出せるこ
とは何一つもありません。ただ無益に明かし
暮らして、老いの白髪となり果てた身のあさ
ましさこそ、悲しいものです。

けれども、今日までは、すべてが変化する
ということわりに、激しくわが身がさらされ
る事もなく、じぶんは死とは無関係であるか
のような顔で生きて来ましたが、よくよく考
えて見れば、これもただ、夢のような幻のよ
うなものにすぎません。今は、生まれ変わり
死にかわりして輪廻する迷いの世界から離れ
出る一筋の道のほかには、願うべきこととて
何もありません。

こういうわけで、この末世の悪い時代に生きるわたくしらのような者たちを、み仏の
はからいによつておたすけくださる阿弥陀如
来の本願が、いまここにはたらいてくださる
と聞けば、まことにたのもしく、ありがたく
思うのです。

この本願に、ただ疑うことなく、ひとすじ
に、お従いするならば、たまたまそのときには
命が終わつても、心身の悩みもなく、かなら
ずそのまま淨土へ往生します。また、もしそ
の命が長らえれば、仏のご恩にお応えし感謝
するために、一生のあいだ、いのちの終わる
ときを限りとして、お念佛申すべきです。

これが『平生業成(ひせうじょう)』のところ
です。(後略)

(浅井成海『蓮如のてがみ』より)

(五帖第四通)
〔文章の一部〕

私は私、先月の寺報に載りました「お仏壇
の入仏式」と云うのを読ませてもらつて以来、

が家の暮らしの中心でありました。

あらためてずっと其のことを思い続けていた
のです。

私がこの家に嫁いで来て以来ずっとお仏壇
が所帯を継いだそのころから、だんだん
ところが二十年前私の連れ合いが死んで、
若い者が所帯を継いだそのころから、だんだ
んお仏壇には疎遠になつて仕舞いました。い
までは朝夕のお参りもお仏壇のお飾りも私一
人の仕事。なんとも淋しいことになつてしま
いました。

何とか家の暮らしの中心にお仏壇を復活さ
せたいと思いつ悩みながら今までそのきつか
けが掴めないままきたのでござります。

そのきっかけを、やっぱりお他力様であり
ました。お寺様から与えて頂いたのであります。

桜花爛漫

春の研修会



山の桜は散ったのに、勝林寺本堂には
奥山桜爛漫とにおい。その日4月20日午
後二時には、男女老若23名が《囲碁ボー
ル》。

四面のコートで技を競いました。何しろこ
のゲーム、初経験とあって、悪戦苦闘。
珍ゲームあり好ゲームあり。全員たのしめ
解け合うゲームであります。

夕刻からは、勤行につづくご法話で研修会
ムード。このころから約45名にふくれあが
り真撃な雰囲気ありました。

つづく懇親会。

いろいろな飲み物・食べ物。仏婦会員持ち
よりのご自慢料理に舌鼓。

まさに春宵一刻。

ひさかたぶりの御同朋。

「つわものどもの交わり」であります。

ありがとう入学祝い



孫の『入学祝い』、お寺から頂いて、まあ、
一番うれしかったのは、このばあさんでござ
います。

孫からは、いずれ近いうちにお礼のはがき
でも書かそうと思っていますが、それよりも先
に、この婆さんの飛び上がるほどの嬉しい
思いをお寺さんに聞いて頂きたくて、お電話
をさしてもらつたのです。

本当に有り難うございました。孫よりも誰
よりもこの婆さんが助けていただきました。
ここからお礼を申し上げます。

頂いた『読本』も其の後、たどたどしい読
みようですが読んで聞かせてください。

本当に有り難うございました。孫よりも誰
よりもこの婆さんが助けていただきました。
ここからお礼を申し上げます。

